

5月20日 ぴかりんぴっく

「ドッコイショ!ドッコイショ!」「ソーラン!ソーラン!」元気の良い、大きな声が校庭中に響きます。今から150年ほど前の北海道のニシン漁で、沖上げ(獲れた魚を、船から陸に挙げること)の時に歌われていた歌がもとにして、それをロック調にアレンジしたのが「南中ソーラン節」です。「ソーラン節」の名前を子供たちから募集したところ、「爽嵐」という名前になりました。「嵐のように、颯爽と駆け抜きたい」「素早く切れのある動きで、見ている人の心に嵐を巻き起こしたい。」そんな思いが込められています。学年一丸となって踊ったソーラン節は、観客に感動を与える踊りになりました。

